

デイリージーザスニュース #029

イエスの初期のユダヤ宣教

父と聖霊はイエスの浸礼の際、イエスの身分と奉仕を確認する

マタイ 3.13-16; ヨハネ 1.32-34 (並行テキスト: マタイ 1.9-11; ロマ 3.21-22)

=====

13^{その}ころ、民衆がみなバプテスマを受けているとき、イエス^はヨハネからバプテスマを受けるために、ガリラヤのナザレからヨルダン川に來られた。14 しかし、ヨハネはイエスを止めようとして言った。「わたし自身があなたからバプテスマを受けなければならないのに、なぜわたしのところに来るのですか。」

15 イエスは答えて言われた。「*今、あなたに命じます。すべての正義を成就するために、私たちがこれを行なうのは当然です。*」すると、ヨハネは同意した。

^水から上がって祈っておられた。すると、天が裂けて、神の霊が鳩のような姿をとって降りてきて、自分の上にとどまるのを、イエスはごらんになった。

17 すると、天から声が聞こえて言った。「*あなたはわたしの愛する子、わたしはあなたを心に留めている。*」

32^{ヨハネ}は次のように証言しました。「私は、聖霊が鳩のように天から下って来て、この方の上にとどまるのを、はっきりと見ました。33 私自身は、この方を知りませんでした。私を水に浸すために遣わした方が、私にこう言われました。『聖霊が下って来て、この方の上にとどまるのを見た人は、その人が聖霊に浸されるのです。』34 私はこれを見たので、この方こそ神の子であると、揺るぎない証言をします。」

=====

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ = MT、マーク = M、ルーク = L、ジョン = J、使徒行伝 = A。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書の書を識別します。さらに、*赤い斜体はイエスの言葉を示します。*

コンテキストダイジェスト

位置	ユダヤの荒野のヨルダン川
時間	イエス生誕30年目の1月

の生涯の段階	ステージ 3: ユダヤ教初期の宣教
第6章	の宣教の始まり
セクション #029	父と聖霊はイエスの正体と宣教を認める

今日の朗読は、イエスと父なる神が宣教活動で初めて語った言葉です。この場面は、聖霊の目に見える顕現で締めくくられます。これはイエスの宣教活動において、非常に重要な出来事であり、言葉でした。イエスの浸礼は歴史上類を見ないものでした。

が神殿で人間として初めて語った言葉が非常に重要であったのと同様に、イエスの宣教活動におけるこれらの最初の言葉は、その後のすべての基礎を築きました。イエスは何と言ったのでしょうか。

「今、私はあなたにそれを許可するように命じます。私たちがすべての正義を成就するためにこれを実行するのは正しいことです。」

の利益に没頭していました。つまり、イエスはすべての正義を成就するために生きたのです。イエスは律法主義者でも、単なる規則の遵守者でもありませんでした。正義を成就することは、いくつかの「すべきこと」とす「べきでないこと」の基準を注意深く守る以上のことです。では、最高の正義を追求するとはどういうことでしょうか。

イエスの言う正義とは、愛の表現です。それは、「愛する人々にとって最善の利益となる」正しいことをしたいという無条件の願いです。愛は、愛を受ける人にとって完璧でなければ、つまり、関係するすべての人にとってあらゆる点で究極的に「正しい」ものでなければ、完全には満たされません。このように考えると、正義を成就することは、常に無条件で公平な愛に生きることです。これが三位一体の働きです。したがって、正義は、関係するすべての人にとって、計り知れないほど美しく、完全に実用的で、永遠に有益なものなのです。

イエスはヨハネのもとに浸礼を受けに来たが、預言者は拒否した。ヨハネの心の中ではイエスの偉大さに対する高い評価が支配的であったことを考えると、これは驚くべきことではない。状況は逆だった。ヨハネは悔い改めの表現としてイエスに浸礼を受けるべきだった。だからイエスはそれが起こるように預言者に命じなければならなかった。それからイエスは、すべての正義を成就するためにイエスが浸礼を受けることが必要であり、ふさわしい、あるいは適切であるという理由を述べた。

これらの言葉から、イエスにとって浸礼は選択肢ではなく、必須のものであったことがわかります。イエスが浸礼を行ったのは、人生で行った他のすべてのことと同じ理由、つまりすべての正義を成就するためでした。イエスにとって浸礼は、宣教活動の初めに、父なる神と私たち罪人に対する愛を表現する最も正しい方法でした。

イエスの浸礼は、ヨハネの手によってヨルダン川に入った悔い改めた罪人たちとは意味が異なっていました。イエスは悔い改めるべき個人的な罪を持っておらず、あらゆる点で父なる神に「よく喜ばれる」完璧な方でした。したがって、イエスの**洗礼**は

イエスの罪に関するものではなく、むしろイエスが私たちの罪と一体となる意志を示したものでした。

イエスが私たちの代わりに、私たちの身代わりとして、つまり不義なる罪人である私たちの代わりに義なる者として死ぬことができた唯一の方法は、イエスが私たちの罪が要求するのと全く同じ扱いを受けることを喜んで受けた場合だけでした。これはイエスが私たちと同一視されたこと、つまり私たちの状況や環境をまるで自分のものであるかのように受け入れたことであり、イエスはそれに全く値しないにもかかわらずそうでした。これは愛であり、神が行うべき「正しい」ことでした。

パウロは後にこう説明しています。「神は、罪を経験したことの無い方（イエス）を、私たちの代わりに罪とされました。それは、私たちが彼によって神の義となるためです。」 II コリント 5. 21

イエスの浸礼は、私たちを義とするために、私たちに代わって罪人と同一化するというイエスの意志を表した。それは、救世主としてのイエスの中心的な働きとなる、イエスの死、埋葬、復活を描写した。それは、イエスが「救う主」、すなわち「イエス」と正確に名付けられた理由を、視覚的に象徴した。なぜなら、イエスの身代わりの死は「人々を罪から救う」からである。

イエスと彼を信じるすべての人にとって、宣教活動の初めから、罪人を救うというイエスの中心的な働きは、私たちに代わって死に、よみがえり、私たちの代表である大祭司として父のもとに昇ることであることを理解することは重要でした。地上でのイエスの宣教活動の他のすべての側面は、私たちの罪を取り除き、信仰によって私たちの中にイエスの完全な正義を確立するというイエスの働きに比べれば、二次的なものとなるでしょう。

イエスは父への愛の表現としても死にました。イエスの浸礼は父への従順と愛を象徴しており、父の利益のために、つまりイエスのために死ぬことで表現されます。イエスの死、埋葬、そして復活は、すべての被造物に永遠に宣言することになります。「友のために自分の命を捨てること、これよりも大きな愛はない。」（ヨハネ15:13）

「友」とは、父と聖霊でした。（イエスは、友ではなく敵である私たちのためにも命を捧げました。）ですから、イエスはこう言いました。「わたしがこれ（十字架に行くこと）をするのは、わたしが父を愛していること、また父がわたしに命じたとおりに行っていることを世に知らせるためです。」（ヨハネ14:31）

イエスは父と私たちへの愛のために死ぬことをいとわなかったため、その死、埋葬、そして水に浸されての復活という象徴を通して表現されているように、イエスの宣教活動の他のすべてが可能になったのです。このように愛するならば、真実を語り、傷ついた人を癒し、死者を蘇らせ、飢えた人に食事を与え、虐げられた人を救い、恵みと慈悲をもってすべての人々に無条件に手を差し伸べ、さらには敵を許しながら死ぬことさえできるでしょう。このように、イエスの水浸しは、彼の宣教活動の究極の表現と成就、すなわちすべての正義を成就し、純粋な愛の実践であった彼の犠牲的な死を、生き生きと示したのです。

イエスが水に浸されたとき、父と聖霊がイエスが本当に救世主であることを公に認めたのは当然のことでした。彼らはイエスの死と復活がイエスの第一の使命の中心であることを確認しました。父は息子への愛を聞こえる声で語りました。聖霊はイエスの上に止まった鳩の姿で目に見えない存在を明らかにしました。これはイエスが本当に救世主、「油を注がれた者」であるという二重の確認でした。この二重の確認がその栄光の日にイエスにどれほどの意味があったかはイエスのみが知っています。

鳩のような聖霊の油注ぎは、イエスが救世主であると特定するために、ヨハネがすでに神から与えられた特別なしるしでした。したがって、この聖霊の顕現は、父が宣言したとおり、イエスが神の子、救世主であるというヨハネの確信。を確固たるものにしました

これらの理由から、私たちはイエスの浸礼を彼の公の宣教の始まりと特定することにしました。これは単なる準備ではありませんでした。父、聖霊、ヨハネ、そして聖書の証言によれば、イエスは浸礼の時に公に救世主であると宣言されました。彼は公式に救世主としての宣教を開始しました。それはイエスに与えられた神の任命式でした。ルカはこの場面の直後にコメントしています...

「イエスは宣教を始めたとき、およそ30歳でした。」 L 3.23A

応用：

イエスは、象徴的な意味を持つ水への浸礼を高く評価したように、イエスを信じるすべての人に、イエスの例に倣って水への浸礼を受けるよう命じました（マタイ伝 28.18-20）。

ヨハネが命じた浸礼は悔い改めのしるしでした。イエスとイエスを信じる人々にとって浸礼は別の意味を持っています。それはイエスの死、埋葬、そして復活を象徴しており、まさに福音の核心です。

信者は、水に浸かることによって、聖書のとおりイエスが彼らのために、彼らの身代わりとして死に、埋葬され、復活したと信じていることを証しします。また、イエスとの信仰のつながりによって、罪深い自分たちの古い生活は死に、埋葬され、復活したイエスと共に新しい人生を歩み始めたことを証しします。最後に、彼らは将来、イエスと同じような復活の体で死からよみがえらされることを証しします。これがイエスにとっての浸礼の意味であり、イエスを信じて浸礼を受けるというイエスの命令に従う人々にとっての浸礼の意味です。

あなたはイエスについて信じていること、そしてイエスがあなたの人生にもたらした変化の証として、水に浸かったことがありますか？

そうでない場合、その理由は何ですか？